

第3期「まちなみ大学」の第1回講義として、「英国の住宅・住宅地計画」を取り上げます。英国は産業革命で住環境が悪化して以来、人々にとって住みやすい住宅、まちなみとはどういうものなのかといったことを真剣に考え、その中からいろいろな住宅地の計画手法を生み出してきました。いまもその手法が、現代の近代的なデザイン手法、あるいは住宅地の計画手法に息づいており、そのルーツを見るという意味で、「まちなみ大学」の第一期初にこの「英国の住宅・住宅地計画」を取り上げるのは意義深いことだと思います。

まず最初は、英国人の居住性ということについて少しだけ触れておきます。

私が住んでいて感じたのは、彼らは建築とかまちなみに対して強い興味を持っていることです。常に自分たちのまちなみを気にしており、とくに伝統的なまちなみが好きなのです。それでもし住宅が建て替わる、あるいはまちなみが変わるような事象があれば、それについてひと言いいたいというような人がいっぱい出てくるわけです。

たとえば、有名なロンドンのシヤに建つロイズ邸ビル(1985)ができてきたときも大論議になりました。リチャード・ロジャースがコンペで取ったものですが、その斬新なスタイルに反対する人が何りにいっぱいいて、何度も作説説明をするわけです。結果として、ロジャースは多くの英国人が好むケンブリッジにある古いブレンック教会の例を挙げて、その例にある建物は、それよりも300年以上古いと、私が設計するロイズビルも、300年後にはまちなみの一部となって、素晴らしいものになり得ると、歴史的な事例をあげながら説得したわけです。以前新聞にも書いたことがありますが、ロイズビルは、私が言いたかったのは、伝統を大事にしながら、同時に創造的なものを非常に大事にしている、そういう風情であるということです。ユネスコやパンクファッション、ゼートルズやローレンス・ストーンズなどは英国から生まれているわけで、新しいものを賞賛に受け止めるところがあるわけですね。面白いなと思うのは、パンクファッションのすごい若手な人たちが暗黒に集っていて、みんながそれを微笑みながら見ていて、安な目で見ている感

じがないのです。そういう態度で英国を見ていくとわかりやすいと思います。

このような背景が英国の住宅や建築計画にも関わってくるのです。まず言えることは、ロンドンのみならず英国全土を見ても、新しい建物を見つけることが難しく、築200年から300年ぐらいの建物がいまだに残っているのです。それを改修しながら使っているわけですが、当然、時代によって使われ方が変わってくるので、それに合わせて内部のプランやインテリアを変えていくということです。それも非常にダイナミックで、道路側のファサードだけを残して裏を全部改修してあるものもよく見かけ、まちなみに対しては注意を払っているのが理解できます。レンガ造りのファサードを残して裏を全部改修するとお金がかかりますがそれでも残すほうを選ぶのです。

古い建物がなぜ残っているかということ、おわりの通りレンガや石の部材造りだから、材料自体が強いことがまずあげられます。もうひとつは先ほど言いましたように古いものほど価値を認める国民性です。イギリス人宅を訪問したときに、何か遺物があって、「新しく買われたんですか」と聞くと、懐疑を顯するんですね、あ、しまったと思い、ほかの家具を見つけて、「これ、なかなかいいワヤしてますね、古いでしょう」と言うと、ニコッとするわけです。古いということが褒め言葉なのです。中古のクルマでもかなりの値段で売れますし、ものすごく古いクルマがいまだに走っているという状況があるわけです。

建築許可の厳しさ

それとさらに、建築基準法が非常に厳しいことがあげられます。しかし、基準法が一番の本としてあるのではなく、英国の場合はドイムと違い、「経験主義」で例があるかどうかというのを、気にするのです。

日本の場合、新しい住宅を建てるとすると、まず確認申請を提出し、建築主事が建築基準法と照らし合わせて、OKであれば確認するという形式なのですが、英国の場合はビルディングオーバーエーション、つまり許可申請なのです。それは、建築家でなくても、隣のおばちゃん、おじさんでも出せます。そして、建築主事が自分の裁量で、許可すると認めてしまうのです。法規というものは基本的に

もう少し外側に行くと、写真3のようなテラスハウスの類があります。ちょうど1920年から30年あたり、すなわち第一次と第二次世界大戦の間に、内外に向けて開発業者が住宅地を、案外に突っ込んで建ていった住宅です。これを集約住宅地というように呼んでいます。

「集約住宅地」と言われてもびんときないと思いますが、産業革命も同時にロンドンに人が集中して実態も住宅が増えました。なかには探さず、道端が全面緑地のような、商業した労働者の住宅がたくさんできましたが、これは増地と真逆なので、まじめと探さず、道端が取れるような住宅を建てれば、収容もなくなるのではないかとということで、新しい条例が各都市にできました。その条例というのが、道路の幅と、高さ、材料、そして屋根の長さのルールでした。デザインに関しては何も言っていないので、統一感はありませんが、やや地味なイメージになります。ロンドンの中心から20kmあたり30kmあたりにこのようなまちなみが見受けられます。



写真3 テラスハウスのテラスハウス。1920～30年代（ロンドン）、ロンドン

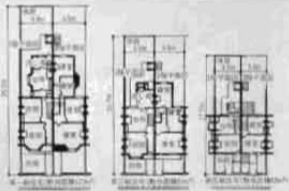


図1 集約住宅地の断面図（左）と平面図（右）

多くの集約住宅地は道路のようなブランクです。スリットを入るとリゼンダがあり、ずっと奥に行くとダイニングがある。そのダイニングから庭が見える。そして庭にはとがとて狭い通路があって、子供部屋があるというようなパターンです。そして庭には多くの場合、樹木が植えています。

中を見てもみましょう。写真4は私が住んでいたテラスハウスの内部ですが、手前がリゼンダで奥がダイニングです。そしてダイニングの向こうには庭がある。これは、ダイニングとリゼンダがつながっているタイプでスロータイプと呼びます。スローというのは庭まであるということです。分かれているタイプはセパレートタイプといって、リゼンダとダイニングが分かれています。このタイプは昔のもの。または築年が大きい住宅によく見られます。

写真は右側ですが、右側の多くは庭に面しています。理由は利便性をしながら庭まで



写真4 リゼンダとダイニングを共有、奥の庭はセパレートタイプと別荘



写真5 庭が見える位置にキッチンが設置されている



写真6 築年が古いテラスハウスの内部、天井が低く、天井が低い



写真7 フラットタイプの集合住宅。1階の住戸（こちらはキッチン）



写真8 中層の集合スウェーデン型になっている

子供の面倒を見られるということ、庭でバーベキューなどをしたときに便利だからです。

リビングには壁炉があります。といっても火は使っていません。産業革命によって空気が悪くなり、一切、壁炉を使ってはだめだという法律ができたのです。したがって、いま残っているのはすべてただの形だけです。燃やせるような壁炉もありますが、真鍮の無煙炭しか使えません。しかしながら英国人は壁炉自体が好きですから、現在ではそこに電気ヒーターを入れたり、あるいは照明器具を入れて飾り場にしています。

写真は窓ですが、ベイウインドウになっています。ベイウインドウは、できるかぎりたくさんの日差しを中に入れたいという要求から生まれたものですが、北側のベイウインドウでもかなりの日差しが得られます。前後が高い所のひとつの工夫というわけです。

写真7、8の2枚は、フラットタイプの住宅です。これは、1960年代に建てられた建物ですから、もうすでに40年ちかく経っているわけです。レンガ造りに勾配屋根ということ、まんなみに合わせているわけです。ここに私は2年ほど住んでいましたが、多くのフラットの住宅はコの字型をしていて、中に共用の庭を設けています。春から夏にかけては、ご老人がベンチを出してひなたぼっこをしている



写真9 リビング。家具はすべて揃っている



写真10 流しカウンターの下の収納。お掃除が楽になっている

という姿も見受けられます。

内部を見てみましょう(写真9)。ソファ、テーブル、ベッドなど家具がありますが、通常英国の賃貸のフラット、あるいは賃貸の家はファーニッシュドといって、すべて家具付きです。したがって、借りるほうにとっては、引っ越しするのが非常に楽です。お皿もナイフ、フォーク、フライパン等の食器もついているので、自分で持っていくものは殆どはいりません。しかし最初に、インベントリーチェックというリストがあって、フォークが何本、ナイフが何本と、全部揃え付けのものをチェックする必要があります。もし出るときにフォークが日本でも少なければ、その分お金を払うということになります。

バスルームは、バスとトイレ、洗面というのは一つの部屋になっているタイプです。興味深いのは、寒い国ですからトイレのすにビントのカーペットが敷かれていました。バスのほうは、当然ながらそこでお湯を熱め、バブルバスを入れて風呂桶の中で体を洗う。そして、お湯を流したあとシャワーで石鹸を落とすとして、出るという方式です。そうすると、家族4人いたら4回、お湯を満タンにするのかと、不思議に思っていたのですが、ある人に聞いてみると、英国人はほとんどがシャワーを利用し、風呂に入るのは月に1度か、2度



写真11 2戸が1建物になっているセミデタッチドハウス。1900～20年代（ウィリアム・ハワード、ロンドン）



写真12 1棟建のセミデタッチドハウス（フィンセント・ヘイ、ロンドン）

らしいんです。

写真10は右側の写真ですが、丸いツタがあるのは洗濯機。洗濯機は埋入型のタイプでキッチンカウンターの下に納まっているのが多い。乾草機も埋入が多い。私が使ったものは背が高くて悪かった。ジャムを入れたとき、乾草機なんかは20分くらい回ってますし、そして出してみると穴があいていたというのが結構ありました。ですから私はあまり乾草機は使いませんでした。

次の写真は半屋で1軒家のタイプ、そして写真12は1階建てのセミデタッチですが、セミデタッチという2戸がひとつの建物になっているタイプが、なぜ印象に多いのか、不思議に思っていました。ある建築家に関してみると、どうやら真ん中に壁があって、その壁を共有できるという意味でコストパフォーマンスがよいのが理由のひとつ。それともうひとつは、1軒の建物だとせいぜい150から200坪なので、ボリュームとしてそんなに大きくはならない。ですから2軒を1軒にすれば、ある程度ボリュームができるので、建物として、まちなみとして感じがよいというふうに、言っていました。



写真13 丸い洗濯機とアンティークのバス（2002）

次に、住宅地計画という点で重要な、ハーワードの田園都市構想を比べてみます。

田園には高がった木がやたら多い。地面を見ていただくとおそろくすぐでわかると思いますが、真っ直ぐな道路はローマン道路といってローマ人がつくった道路で、それはいつか壊っていますが、それ以外の道路はほとんどが曲がっています。これは中世のまちなみにおける曲がった道路を受け継いでいるからです。そこには落ち着きと心地よさがあるのです。

エベネザー・ハーワードの考えた田園都市構想というものがあります。ハーワードは建築家ではなく、社会学者あるいは哲学者ともいえる人です。彼は、都市には自然がないが、仕事がある。一方、田舎のほうは、仕事はないけれども、楽や田舎があり、自然豊かな所で暮らすことができる。その両方の良さを兼ね備えた「都市と農村の中間」ともいえるべき田園地を考えていく必要があると唱えたわけですが、彼は1908年に『明日の田園都市』という本を書いたのですが、これが非常に衝撃的で、世界の住宅地計画に影響を与えました。世界中あらゆる所で、田園都市つまり「ガーデンシティ」という街があります。日本でも田園調布があり、シンガポールや東洋でもいろいろある所にガーデンシティが受け継がれます。

彼自身は建築家ではないので、具体的なデザインの話はしていません。実際に設計に関わったのは、レイモンド・アンウィンとペリー・パーカーという建築家です。特にアンウィンが担当しました（図2）。彼はハーワードのアイデアを具現化して、実際に住宅地を設計することによって、その考えのよさが理解できるのではないかと考えました。最初にアンウィンは、何をしたかということ、まず彼が非常に好きだった中世のまちなみを調べてみたの



写真14 田園都市の街並み（ウィリアム・ハワード）

です。英国の中世のまち、たとえばカーズイ
村という、16世紀につくられた村があるの
ですが、そのなかからさまざまなデザイン概念
を分析・抽出したのです。写真13を見てもお
わかりでしょう。道路がのりやかに曲がって
いますね。また彼はドイツの中世の住宅地も
調査して、専ら向きと変化のある住宅地のデ
ザイン・コンセプトを整理しました(図11)。

たとえば、共同地をつくるとか、中心性を
活かすとか、あるいは住宅地はロードサイド
にあるとか、道路は曲げるとか、曲がった道
の間に空間とか、あるいはさまざまなサイズ
の住宅による不規則性、所々に設けたオーブ
ンな共同空間、教会や公共施設によるまち
の中心性などの要素を抽出したのです。

家の方向は、こっち向いたりあっち向いた
りしてですね。1階建てがあつたり2階建てが
あつたり、そして、道路住宅があつたり、あ
るいは、道先に穴が開けていたり、前庭があ
つたり、非常に進化に富んでいます。これら
を彼自身は設計のデザイン・コンセプトとし
て設計に活かしたのです。それと、彼自身
が非常に熱心だったのは、アンウォン・パ
ークと言われているのが、新興住宅地にあるよ
うな、真っ直ぐに戸建やササユスの家を並べ
るのではなくて、道中にコモン・ガーデン、
つまり共有の庭を設けて、そして向きを曲む
ように住宅を配するアイデアです。

いわゆる住宅地計画のアクセントがここ
にあるのですが、これらは、いまの住宅地の
設計において使われている手詰です。これが
旧世紀の終わりにすでに考えられていたの
ですから、驚きです。アメリカのロード・パー
ンシステムにもこのやり方が用いられており、
現在でも学ぶべき点が多々あります。

我が国に関わったのがレッドワースとい
うニュータウンです。コモン・ガーデンを
住宅ですと興んでいきます(写真14)。プランを見
てもおわかりのとおり(図12)、住宅は出たり
入ったりしています。同時に、テラスハウス
があつたり、戸建てがあつたりといふよう
なことで、進化に富んだ、さまざまなタイプの
住宅が並べられています。そして、道路も、
真っ直ぐの道路を設ける場合は必ず、道路の
エッジにはアイストリップとしての建物を配す
というところに行つたのです。

次に我が設計したのは、ハムステッド・ガー
デンサブurbです。住宅地のデザインや道路
形態は放射状に広がっているのがわかると思

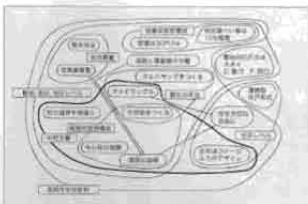


図11 アンウォン・パークの住宅地計画のデザイン・コンセプトの整理と抽出 (出典1)



写真14 レッドワースのニュータウン、コモン・ガ
デンを住宅が取り囲んでいる



図12 レッドワースの住宅地のニュータウン計画 (出典2)

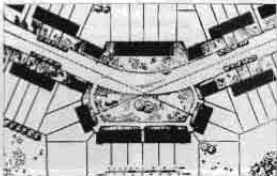


図13 住宅地の設計と計画において、道路を設けるように住宅を配している (出典1)



写真14 西ロンドンにあり、セントポール教会の隣に建つグreshamホテル

います。旧財状に広がっているということは、当然ながら中心性があるわけです。その中心性の部分に、教会、あるいはシナイホールというような、まちの中心的な建物を残置しています。そして、あとは無断道路を削げるか、あるいは曲がった道でつないでいくということをお考えたのです。道路の曲がった所には、従前のようにサイドストリップとしての住宅を配置するのです。また、彼は住宅地の入口に大きなゲートを設けようと思案は考案したのですが、ゲートよりもむしろ住宅を建てて、住宅地自体をゲートに代わろうということまで考えたのは、この住宅地の元にはないのです。また、住宅地の中心には教会と市街センターがあります。

結局いろいろな形勢の人たちが一緒に住むというアイデアだったのですが、なにぶん環境が大変よく、私もできれば想望したらハムステッド・ガーデンサブウープに住みたいと思うほど魅力的なので、いまはもうお金を持っている人しか住めなくなってしまいました。そのへんは、ハウスの理念とはちょっと乖離してしまっている状況です。



写真15 大都市圏の周辺はすべてグリーンベルトで囲われている。これは資料



次にこの話をこの本にのべてお返しいたします。ロンドンをはじめソントチェスター、リバプール、バーミンガム、ブリストルなど、グリーンベルトが各都市を囲んでいるのです(図16)。グリーンベルトというのは、都市がある場所とはならないようにしている禁止帯なのです。このまわりにのびるのいのは制限がはかるといふことで、計画的に都市のサイズを決めておき、その周りを制限で囲んでいます。緑を供給するというのもありますが、同時に、ずるずると都市が膨張しないようにしているのです。日本の場合を考えてみると、横浜、東京、千葉がずるずるとつながっており、区切りがありませんでしよう。けれども、そういうことは英国に比べて、一貫必ず都市の区切りとしてのグリーンベルトを巡り次のまちに行くといい構成になっています。その間人がグリーンベルトを越えると、田舎の風情がずらっと広がります。そして、広がりの中にボツボツと商家がぽつぽつと見えます。



写真16 田舎の中心に建つ民家の写真。[アール]



写真17 シンシアはハムステッドの一角に建つ「リサーチ」が置かれていた



写真18 シンシアにはコンソート・スペースというサブ・ホームが置かれて置かれていた

写真3冊の数は、私の友人の家ですが、書物の中に畑があって、その途中を歩かべて楽しむほど大きな敷地です。畑には、もちろんリンゴと梨と梨と、あるいは北陸という地域のレモネーションともいいます(写真1)。そして畑の真ん中にはベンチがあって、ほろほろととんぶのトローニーがはけてありまわ(写真2)。僕らはこれをランサーバトリートと呼んでいます。扉を開けてみると、温室や倉庫という印象です。これはどうやら自然や畑、光も暑も享受できるような場所という意味でランサーバトリートらしいです。丈夫なだけでなく、必ずこのうらた菜園(サンルーム)のような場所が用意されています。

庭園の設計と公園

さらに庭園の中心にも、公園のスペースがあります。私はロンドンに行って一番良かったのは公園の多いことでした。なぜかといいますが、当時、息子が4歳と2歳だったのですが、公園がそこそこあるとあるめでたきもので、敷地内にできるのです。どこを歩いても安全なのでお庭にありたいかーと、なぜみんな公園が多いのかというところ、そして目撃が持っている土地が、ある程度に多く公園として整備されたからなのです。それきっかけは、日記記事にメモして、そのあとが園芸雑誌の表紙化に知して、彼女が行った社会改良団体です。彼女の運動が世論の心に通じ、土地生公園として国や地方自治体に実行していきました。

また、ナショナルトラストに寄付する機会もあります。ナショナルとは付いていますが、園がつくったトラストではありません。これは、あくまでお庭の主体で、寄付団体なのです。そこに土地を寄付すると、基本的に庭が壊され、それが住宅地になるといふことはありません。

みなさんご存じかと思いますが、園田というお庭は公園設計が一般的なかーた設計です。オアシスはアサント集があり、これはまさに公園設計で敷地が広いと主張が立てられてしまっている。園田ではさういふ主張が立てられるような公園設計は一般的かかった。いまもあってもお庭や引込が残っています。それはよく分かりますが、園田の設計というものは、お庭の中心というか、社会の状況が遠くになって



写真3 園田のランドスケープと庭園設計

くると必死力を覚悟して、物を寄付したり何かの運動をして、税金に寄付してきたのです。ですから、園田設計で敷地が何らかの敷地をして、高価として地価を上げるかという園田上の問題が生じてきました。

写真3はハムリッドロードという公園です。同じ公園のデザインの特徴としては、自然の形をできるかぎり生かしていきとすることです。これはフランスの園芸学的なデザインとはまったく別個的な考えです。敷地が広いとそれをそのまま園として使い、それがあれば庭として残さずじまないとはいえない考え方です。このハムリッドロードには、民間園があります。それはお庭、この土地を保存していた園田の家だったからなのです。つまりこの土地も民間の庭だったからなのですが、それを公園として寄付したのです。土地は多くの人が公園に散歩に行きます。これだけお庭をしていられる人もいます。あるいはサマナーをしたり、お庭を持ってきてお庭をした。一本を植えてお庭にして通じます。したがってお庭はほとんどお庭から、お庭が上れるというわけです。

お庭の設計

次に庭の設計に関連して、「園田の村」というお庭の設計というお庭の設計があります。お庭と公園と敷地の設計は村の設計設計です。お庭というのは敷地の設計ですが、園田の設計設計を見ても、必ずお庭の中心に公園、敷地、そして公園があります。そしてその設計にはお庭の設計がどのように設計されています。これは、お庭で設計をしているときに、とてもお庭に近いです。なぜかと言うと、園田のお庭に敷地の設計が見えるとそこに村があるお庭とわかるわけです。そしてさらに設計していくと、お庭の設計、一冊設計で設計があり、お庭には敷地があります。そしてお庭は

がありますから、そこに行って朝食をとることができ、つまりお腹が減って、眠が覚くと、教会を探せばおのずとパプが見つかり、食事にありつけるわけです。

現代の若い建築家が新しい住宅地の設計をするときにも、この村の3要素を使います。ダーバン&ダークは住宅地、集合住宅の設計が得意な建築家ですが、リリントンガーデンズの住宅設計コンペのときに、彼はこの教会とパプと公園というのをセットにして提案し、見事に勝ったのです(写真20)。そのへんは、非常にわかりやすい英国らしいコンセプトだなあと感じました。



写真20 リリントンガーデンズ集住住宅。1階にはパプが設けられている。

写真21 バンダリーストリート住宅地の中心に位置する公園広場

公共住宅の建設

公共住宅の状況についても触れておきます。ロンドンには、LCC(The London County Council, 1888-1965)、その後のGLC(Greater London Council, 1965-1986)というのがありました。これは、東京都でいえば住宅局に該当する部署ですが、ロンドンの場合はそこが実際に住宅を設計・建設してきました。まあ、公団的な役割をも持っていたわけです。サッチャー政権の登場によって1986年に解体されました。LCCやGLCは、若い建築家にとってあこがれの職場でした。学校を卒業すると、まずはGLCを受験する。そこにいけば、腕をふるって住宅の設計が実際にできるのです。さきほど、古い建物がたくさんあって新しい建物の設計に腕をふるう機会が少ないといいましたが、GLCにさえ入れば、新しい公共住宅の設計ができたのです。

図7、写真21は、GLCの最初の大規模再開発のプロジェクトでバンダリーストリート計画といいます。真ん中に公園を設けて、そこから放射状に道路を配置してあります。これはいまでも保存の状態がよくて、まちなみも

まちなみ大学(第3版) 調査録1



図7 バンダリーストリート計画(出典5)



図7 バンダリーストリート計画(出典5)

図7 バンダリーストリート計画(出典5)



写真21 バンダリーストリート住宅地の中心に位置する公園広場

写真22 ミルバンクの集住住宅。レンガ壁のアデザインが美しい

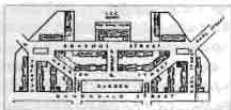


図8 ミルバンク計画(出典5)



写真22 ミルバンクの集住住宅。レンガ壁のアデザインが美しい

高層にいいです。

よりパンク計画も、目標に高層中にコモンゾーンの設けて、放射状に道路を配置しています。同系、写真22の建物は、現在のビルパンクの建物ですが、これを見ても非常に高が高い。ロングのアイデアを見ても、放射状にも素晴らしい。雲の高いデザインは、あとになってもっともよくと選んでいくものです。

また、もうひとつ注目しておきたいことは、高層化に禁止符を打ったということです。高層住宅を建てるときにもろもろ鉄筋コンクリートを使いますが、同時に工業製品のプレファブササケーションとしてあるかまのパーツをつくっていき、都市下部にパネルを壁として用いていく方法があり、そういった工業製品でつくった高層ビルが1950～60年代にたくさん建てられました。

本来の住宅の姿というのは高層住宅だと言う人もいました。築き直し同じものを生産する工業製品によって簡単に高層のものを建てていくというのが、これからの建築なんだということ。高層住宅がどんどん建てていきました。しかし、これに対してさまざまな反対意見が出てきました。一応、高層住宅は地震から懸念することの自然的不安を覚えた。あるいは、上の階に行くのにたいへんだと歩道を渡る住民もたくさん出てきました。もっとも外国人というのは、高層ビルはあまり好きではあらず。これははっきりしています。というのはマンションでも、日本では上層のほうが値段が高いですが、向こうでは一番のほうが高いのです。つまり地面に近いほうが高いということなのです。

これに併せて、上のほうに住んでいると赤ちゃんのおむつが落ちるのが悪いとか、歩みだすのが悪いとか、そういうことが言われはじめたのです。何かしら高層住宅について新聞などメディアが取り上げていた時期に、ローテーションという高層住宅で高層ビルがガス爆発事故が900回以上起きて発生まででした。これを機に、もう高層住宅はやめようじゃないかということになったのです。それで1965年以後、実際の公共住宅は結構で、高層タイプの住宅に移行したのです。つまり、3～4階建てくらいで、多くの住人が入る込みつつ、ナラスな外部空間をうまく設けながら、築き直ししていくというタイプの設計が増えつきました。これが公共住宅の一つの特徴となっています。



写真22 高層ビルとスリット・ロードの計画（1970年撮影）

しかし、高層住宅は売客ももろもろ聞ていますが、ガス爆発事故が頻発されて輸出が減少、結果として低層住宅が高層住宅にわり、あるいは安いので、そこに入るということになり、行なわれるようになりました。そしてパンクスによるスラム化が、かなり問題になりました。これは高層住宅ということなのですが、ちょっとおぼろげな山崎がロンドンにはいくつかあります。それは、多くの場合、工業化住宅で高層住宅です。いまは役所ではそれとどうにか手だてをしようとして、高層化や高層などさまざまな工夫が行なわれています。それが公共住宅の現在の状況です。

やがて、写真23が示したのは高層の高層度住宅で、写真23はアレキサンダーロードの住宅(1970)です。これは1960年代後半で建てた丸川と高層ビルもこのプロジェクトに関わっていました。真ん中に歩道を設けて、この歩道もゆるやかに曲がっています。その両側に、歩道を設けて駐車道を設ける。歩道分断をして、建物はメゾネットで、3階にしてさまざまなタイプの住宅が入り込んでいる。非常にデザイン的にもすぐれています。



ロンドンにおける新しい住宅開発。基本計画の設計としては、アーバンランドのプロジェクトがあります。これは、ロンドンの中央20～30kmのあたりですが、ここには、長らくさんのドックがありました。やがて使われなくなったドックを再開発して、新しい高層、オフィス型をつくらうという計画がサッチャー政権の意向で進められ、いまも開発が促されています。これは、いい部分と悪い部分も両方あるんだ、非常に面白い部分です。



写真16 東京都港区西新宿1-1-1 住居ビルディング
（2012年完成）



写真17 東京都港区西新宿1-1-1 住居ビルディング
（2012年完成）

このほか、周辺にオフィスビルや、古いビル
の建て替えの計画があります。その中心の西子
ンジャービルは、アメリカの建築家ジェームズ
ハワード・ロビンソンが設計しています（写真
24）。アメリカの建築家、日本人の建築家
として活躍の中心にきたおかげで、そのビルが数
百年後も残っている場所が少なくて、古物は
基本的に壊れていってしまうので40%は
残存しているという状況です。残存するものに
修復が行われ、それ以外の部分は壊れてい
るので、修復はほとんど新しいビルとして
建てられています。また、アメリカのビル
と比べて、日本のビルは壊れていくのが
早いです。古い建物が壊れていくのが
早くなるので、建築家は必ず壊れていく
ことを前提に設計がなされ、ブータンでは、あ
る意味で建築の寿命になっていく設計もあ
ります。しかしながら、アジアの建物は耐
震設計がほとんどありません。

写真24のような建物が残っています。こ
れは旧アービー・ビルという建物が改修した
マンションです。基本的にニューヨークでは
ブータンで、カーネルズビルなど、建築の寿命
を必ず考慮して設計しました。ヒューズビルは
ビルスターンで建築の気象で、修復は、ア
メリカの建築家による設計に建築家とス
キムソンによってなされ

これは建物も、ブータンでは、建物の
寿命を考慮して設計したビル建てられていま
す。建物をセンサーズビルなど建てて、建物の
寿命を考慮して、設計された建物が残るビル
ビルビルビルビルビル



写真18 東京都港区西新宿1-1-1 住居ビルディング
（2012年完成）



写真19 東京都港区西新宿1-1-1 住居ビルディング
（2012年完成）

ビルビルビルビルビルビルビルビルビル

ビルビルビルビルビルビルビルビルビル
ビルビルビルビルビルビルビルビルビル



ビルビルビルビルビルビルビルビルビル
ビルビルビルビルビルビルビルビルビル

ビルビルビルビルビルビルビルビルビル
ビルビルビルビルビルビルビルビルビル

ビルビルビルビルビルビルビルビルビル
ビルビルビルビルビルビルビルビルビル

だと、どこに建っているマンションも同じようなプランになって面白くないというような悩みが出てきたわけです。どうにかもっと創発的なマンションに住みたい、あるいは自分の設計したプランのなかで住みたいという人が増えてきて、それなら何人かが協力して、土地を手立てし、建築費を減らして、建築家と話し合いながら集合住宅をつくっていくというのがコーポラティブ方式です。

しかし、英国の場合は民間は極めて少ない、ほとんどないに等しく、むしろ自営住宅の形のなかでコーポラティブ方式が採用されてきました。その理由も、いろいろなプロセスを伴ったプランを供給しようというのが目的ではなく、むしろローコストで低所得者でも入れるようにするためにコーポラティブが生まれたからです。都市再開発が進む不況期には、そこに住んでいた人たちが一旦別な住宅に移っていたとき、建築費にまた戻すという手法のなかでコーポラティブが発展してきたのです。つまり、英国の場合には分売住宅主導、そして、分譲ではなくて賃貸というのが、その特徴です。

写真28はコーポラティブ住宅の写真ですが、2人はコープの委員長とその息子さんと、彼らは賃貸のコーポラティブに住んでいます。そして、みんなで協力して、共同のコミュニティセンターや庭を、どのようにしたらいいか、あるいは、五層りやパーチャーのプログラムをどのようにしたらいいかというようにことを相談しながら運営しています。

写真29は、リパールのウェルウェストロードコーポラティブですが、もともとはスラム化した住宅地があって、一軒その人たちが、プレハブの住宅に移し、そこで何年も、必死にたがむ住宅はどうしたらいいかというディスカッションを建築家と共に進め、でき上がったのがこのコーポラティブハウスなのです。

コーポラティブには、改修のコーポラティブもあります。古い集合住宅に住んでいる場合、子供が大きくなって、部屋がたかさん必要になってくる。ベランダも欲しい、設備も悪くなってくる。そのような要求が次々交差する時に、皆で話し合っ、どのように改修したらいいかを決めて役所に申請して、改修を行なうという私たちのコーポラティブです。ここでは、建築としてベランダをつけ、設備更新を直し、そして建物の外装をつく



写真28 英国、東ロンドンにあるコーポラティブ、東ロンドン・ウェルウェストロードのコープの委員長とその息子さんと、彼らは賃貸のコーポラティブに住んでいます。



写真29 リパール・ウェルウェストロードのウェルウェストロードコーポラティブの建物。



写真30 英国、東ロンドンにあるコーポラティブ、東ロンドン・ウェルウェストロードのコープの建物。



写真31 英国、東ロンドンにあるコーポラティブ、東ロンドン・ウェルウェストロードのコープの建物。



写真32 英国、東ロンドンにあるコーポラティブ、東ロンドン・ウェルウェストロードのコープの建物。

演じました(写真参照)。

「この本がきっかけで、キョウマシロゾもあがり、写真以外の個人案件は、加増で倍さんの収入、仕事しながら子育てをやっていました。住居費が厳しく、お金の使い方もミラクルでエネコが助ったのですが、1年くらい続いたら、ようやく自分の業になってキョウマシロゾが普通のサラリーマンで稼働するようになったのです。間に立っている人は建築家や、後輩にエネコを使って建てた方がいいんじゃないかと、不動産屋も勧めていたのですが、

「お金を、手を出さず、そして創価会までいかに使ってもらって、大抵は済ませたいから、みんなが騙される必要があるわけです。キョウマシロゾが左様は素晴らしい事業で誇りに思っています。」

写真にはおられないように、キョウマシロゾは普通のサラリーマンで、基礎はコンサルタントプロフェッショナルに徹し続けて、その上に業を積り、本投資し、手回し的に稼働しています。また稼働しているだけに、誰でも教える事業には興味を持っていません。



高利貸の投資あるいは高利貸の銀行については、加増高利の集約的考えからして、「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」のことまで書いています。

結果は、稼働も悪くならず、個人事業で年600万円の手回し稼働にしろという考え方がありましたが、そうではなし、さまざまに悩んでいって、最終的に自分自身で「大抵の事」という方針になってきました。加増高利の個人事業で稼働している場所が、一番面白いはずですが、稼働も悪くならずしてで稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

で、それから、投資稼働に関しては、加増高利の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。写真2枚の出題の成績では、加増高利の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

住居のバリエーションが豊富です。また、高利貸の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

「お金を稼いでいるのは、キョウマシロゾの集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。写真2枚の出題の成績では、加増高利の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

「お金を稼いでいるのは、キョウマシロゾの集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。写真2枚の出題の成績では、加増高利の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

「お金を稼いでいるのは、キョウマシロゾの集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

「お金を稼いでいるのは、キョウマシロゾの集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。

「お金を稼いでいるのは、キョウマシロゾの集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。写真2枚の出題の成績では、加増高利の集約的考えからして、稼働も悪くならずして稼働も悪くありません。投資も悪くして其れみよの点を稼働して稼働している。これは、これが「キョウマシロゾ」で「キョウマシロゾ」の概念です。



写真31 玄関前に設置されたリフト



写真34 公園通路の段差にリフトを設置して段差アスロープを設けた設備



写真35 ドッグランの柵、東部のガラスはエレベーター



写真36 歩道と車道の間の低下は緩やかである（モルテンキーンズ）



写真37 スロープを土手デザインにした設備（ロンドン）



写真38 街の中心は歩行者天国になっている（パーキング＆カナル）



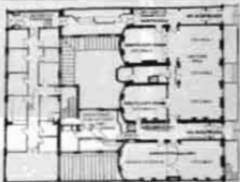
写真39 ショッピングセンターの入口、オートドアのボタンは車椅子の人が押しやすいよう設置されている（モルテンキーンズ）



写真40 ネットショップの店にも車椅子を止めて高くバーが設けられている（モルテンキーンズ）



写真41 ヤムズ公園の歩道橋上部分、スロープが階段に準拠されている（ロンドン）



AA School Floor Plan

図17 AAスクール、1947年建築設計図（建築家）

AAスクールにおける建築教育

歴史に、先が学生として、また教師として過ごしたAAスクールは、非常にユニークな建築教育を行っているところなので、簡単に紹介したいと思います。

AAスクールは1847年にてきた学校であり、英国最大の建築学校で多くの有名建築家がここを卒業しています。インディペンデント校で、干渉を嫌って固がるの建築は一切受けていません。

学校の建物は、もともとはジョージアンの住宅で、中に入るとコートハウスになっています(図17)。右側の方に講義室があり、左側に研究室があるのですが、これはユニットと呼んでいます。このユニットが学内にくっつくもあり、先生はそのユニットのプログラムを1年間任されて進捗するわけです。

写真42はバーです。学校の居人中にバーがあるのです。この学校は建築家のサロンから生まれの学校であり、そのサロンにあるバーが学校の中心にあって、その周りに教室があるわけです。したがって昼間からみんなビール飲んだりワインを飲んだりという状況が見



写真42 バーが学校の中心に設置している(AAスクール、ロンドン)

受けられます。

そして写真43のような工図があります。これはAAスクールだけでなく、ロンドン大学や他の建築学部も必ずこういって図があるんです。本を切ったり紙を裁断したり、型紙をつくったり、概念スケッチをつくったり、実際に手を使いながらものをつくって、そして実際にそれを図面に落とすという順番でプロセスをやるわけです。

最初にユニットの先生は、私は1年間をこのようなプログラムでやります。そして、ユニットの旅行についてはバーに行きます、というようにことをお話しします。学生のほうは、第1〜3学期まで、自分の入りたいユニットを申請します。インディペンデントを望むのです。学生は、AAサイズでいたい100枚くらいはポートフォリオの応募を持ってきます。先生がそれを見て、お前はOKかなとなると、このユニットの学生になるわけです。

授業は多くの場合、チュートリアルを言いまして、学生と先生との個別指導で進められます(写真44)。また、エグゼクティブセミナーというのが、週に二回くらいあります。ロンドン以外の所、建築家が実際に立ち寄りやすい場所ですから、世界中の有名建築家が来て、講演をしています。これはオープンで、AAスクールの学生だけでなく、当方も多くの人が聞きに来ます。

そして最終の試験というのは、作品を一つずつ、ユニットの先生が評価をして決めるのですが、このときに自分の先生が学生の作品を他の先生に説明します。それはなぜかという点、その先生は自分の学生の作品に責任を持つということですね。逆に言うと、もし目の前のユニットの学生が選んでも選んでもなかったらその先生は次の年までになってしまっても責任がありません。やりたいことは自分のユニットが毎年入れ替わっています。日本の大学とはずいぶん違います。

それではプログラムを一通り紹介したいと思います。



写真43 ワークショップ(11時)は多くの建築家や学生が訪れる(AAスクール、ロンドン)

います。

この課題は、「朝8時半にはバザールスタート・ステーションに行って、美人を見つけ、尾行しなさい。そして、その人と都市との関係を考えなさい。対象10人は尾行しなさい。もし気づかれたら、その時点で尾行はストップしなさい」という内容でした。そこには、何をデザインしろとか一切書いていませんでした。私は非常にとまどったんですが、やるざるを得ないので次の日から尾行をスタートしました。

何人も尾行調査するなかで、先生は聖徳大学校の女生生の尾行調査が面白い、学内での彼女の生活も調査しなさいと言われたのです。それでその日から再び彼女を駅で待ちました。ようやく1週間後に関われて、再び彼女を尾行し聖徳大学校の中に入ってその1日の様子をスケッチしたのです。なんだかんだしながら結局私のプロジェクトは、自分の体と服との間の空間を探索するようなものになりました(写真45)。これは、私的なものと公的なものの間のスペースの探索につながるという意味からです。

次に、2学期に入ると今度はタクシーのプロジェクトに移りました。これは、「ある駅か駅の近くで、自分の興味のあるものを見つけなさい」という課題でした。私が興味を持ったのは、たまたまタクシーだったので、ドライバーの1日の生活とか、あるいはタクシーの構造自体を調査しました(写真46)。すると先生はほうから、「そんなことやっても意味

はない、もっと1分の1で考える必要がある。タクシーを買いなさい」と言われました。しかしタクシーを買いなんてちょっとでござせんから、タクシーの扉を買いました。結局、本物を大切にするという意識が強いのです。

それで、タクシーの窓を通じてのいろいろな行為をスケッチしました(写真47)。ロンドンのいろいろな場所を持って行って、その扉を顔縁にして、さまざまな景色を撮りました。最後には慣れましたが、初めは恥ずかしいものでした。そして、タクシーに関わる、空席やホテルなどを調査して、ドローイングを積みました。

そのあとで、ホテルの設計をしたのですがそれだけでは面白くないと言われるわけです。そこで、写真48のようなタクシーの扉を開けて、そして、入るスケールの入口を見たときに、そこにトビラが置いてあるというようなドローイングを描いたのですが、これを先生が気に入り、「これはパフォーマンスだな」ということで、私のプロジェクトはパフォーマンスのデザインになっていきました。

扉のキャストをつくりスクリーンに見立てました。そして扉とフレームで構成したタクシーの配付セグメントを組み立てて、逆にそれを経験させるかということで、チャールズ皇太子にしました(写真49)。といっても偽物チャールズ皇太子は、1時間当たり2万円で見ましたから4万円払いました。ダイアナ妃のソックリさんより安かった。このアイデアは、偽物のプリンス・チャールズが、本物のタク



写真44 授業は主にキュートソファ(無人劇場)で決める。この写真も、中央がセグメント・プライス劇場、右が学生。



写真45 もの身体とホテルとの関係を表現したドローイング



写真46 タクシーに関わる様々な調査をまとめたドローイング



写真47 タクシーの窓に穿つ様々な行為のドローイング



写真43 AAスクールでの型にアブリ製のカイメーリスカップ



写真44 多くの観客を吸引し続けた。展示の日は来客千の大人。これはクワリーのモデル。

ローでやって来て、私のつくった動物のクワリーを体験するというコンセプトです。

ここにはさまざまな建築のボキャブラリーが隠されています。たとえば、二次元の前面フレームがありますが、クワリーの2枚の扉を開くことによって、三次元になりますね。そして、そこにはいろいろな、レバーとか、シート金具とか、スイッチとか、そういうものが用いられていますね。ですから部分と全体の関係があります。つまり、パフォーマンスとはいえ、建築的プロジェクトなのです。

展示が11月15日曜日よりでしたが、学校閉校の2時に、ある人がAAスクールにやってきます。10分前に、だれが来るかというのを発表します。みなさん、芝居期待というようなことを発表するのです。そして10分前に「プリンス・チャールズがやってきます」と校内放送したので、みんながワーッとやってきて写真のような状態になったのです。そして私がそのプリンス・チャールズを校内に案内するのですが、ある人は驚き、ある人はニヤニヤしていました。

建物だけを設計するという捉え方ではなくて、パフォーマンスあるいは料理、音楽なども建築であるとAAスクールでは幅広く捉え

ています。

このほかにも私が助手をしていたときにも、さまざまな面白いプロジェクトがありました。このユニークな学校は、建築の知識を単に教えるというよりは、むしろ各自の創造性を開拓するということを大切にしている学校であると感じました。

建築家「アダム・ワット」の住宅設計事務所、内田建築、東京大学にて「設計の理論とワークショップ」を講義、現在建築士会員として「Regional Classic Town Planning In Practice」

1999
住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

建築家「アダム・ワット」の住宅設計事務所、内田建築、東京大学にて「設計の理論とワークショップ」を講義、現在建築士会員として「Regional Classic Town Planning In Practice」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」

住所：「イギリス文化の館」建築家、建築設計家
住所：「東京大学」408号館
住所：「AAスクール、イギリス文化の館」